

# 森林整備Ⅰ

森づくり、里山づくり（理論と実習）

日時：平成23年10月8日（土） 10:00～15:00

講師：林 進（岐阜大学名誉教授・雑木林研究会会長）

## 概況



### ◎森づくり、里山づくり(理論と実習)

#### 1. 座学(「遊び」空間としての森の利用と整備を考える)

##### ①遊び空間としての雑木林(子供の視点から考える→家族で森遊びの発想へ)

近年、子どもが外で遊ぶ姿を見なくなった。その理由として子どもの身の周りから魅力的な遊び場が減少したことが考えられる。また、雑木林は、子どもの成長に大変意義のある遊び空間であるが、現状では、雑木林は放置されており、子どもの遊びには適さない。これらのことから、子どもの遊び空間としての雑木林整備のあり方を検討する必要がある。雑木林を遊びに適した空間にするためには、下層植生の整備、林内における危険物の除去、散策路の設置が有効である。有効でない整備としては、下層植生をそのままにする、常緑樹割合を高いままにする等が挙げられる。

##### ②森での遊び方と期待効果

###### ・環境教育面の効果

→自然環境を理解する。環境保全を意識する。

###### ・子どもの相互関係を高める効果

→子ども同士の関係を深める。

###### ・遊び方と子どもへの影響

→五感を使った遊びが、観察力、社会性、創造性などを育む。

### ③ 森遊びと子どもの発達

森の中では、動物や植物、キノコ、水、地面といった様々なものが子どもの遊びの対象となる。子供たちは、それらの対象物を活用しながら、自ら様々な遊びを見つけしていくことで、身体、感性、創造性、社会性などを発達させていく。

### ④ 遊び空間としての森の活用方向

#### ・森の遊び機能の活用

→五感を使う遊びの意味を活用する。

#### ・森空間の発達機能の活用

→身体、感性、創造性、社会性などを発達させる森の機能を活用する。

#### ・森の多様性の活用

→森空間の多様性が、森の中での多様な基本動作を呼び覚ます機能を活用する。

#### ・遊びの対象物の多様性の活用

→何でも遊びの対象物化されうる。

#### ・総合作用の活用

→特徴や関心のあるものを見つける、変わっていくプロセスを取り入れる、自分の手で形を変える・創る、などの行為を総合化する。

### ⑤ 森の中に楽しい空間をつくる

・美しい森をつくる → ツツジの花園づくりなど

・いのちの森づくり → オオムラサキの森づくりなど

・現地発生材を利用する森づくり → 木チップで小径づくり

・楽しく、安全に歩く森づくり → ユニバーサル・トレイルの指標

## 2. 実習

幼児森林体験フィールドにて樹木を伐倒し、明るい森づくりを行った。